

～パーシャルデンチャーでの対応～

“欠損歯列に対し機能させるための着目点”



奥森 健史

歯科技工のデジタル化が日々進歩をしていることは疑う余地もない。そのような中、デンチャー製作のデジタル化はまだ研究・開発の途中であると思われる。特にパーシャルデンチャーはさまざまな欠損状態にあり、さらに患者可撤性装置という“限られた条件下”にあるため、ポテンシャルを発揮することを演者は常に考え臨床に携わっている。また日々進化する各マテリアルに対するテクニシヤンの考え方は、そのリスクとベネフィットを見極めるための多くの知識が必要である。また、見た目のデザインだけを追い求め、その製作手順だけにこだわるのではなく、完成されたパーシャルデンチャーの経年変化を想定しながら対応していくことはとても重要だと考える。

本講演では、パーシャルデンチャーにおける各構成要件の機能について、ラボワークからの視点で各ケースについてステップごとの着目点を解説したい。

【略歴】

1984年 東洋歯科技工学院

1992年 渡独 ドイツ {プフォルツハイム}

2000年 有限会社 デンタル・プログレッシブ開設・現在に至る

代表 奥森健史 咬合・補綴治療計画セミナー インストラクター

大阪大学歯学部 歯科技工スーパーバイザー

デントウラム社 {ドイツ・プフォルツハイム} 公認インストラクター

日本歯科技工士会 認定講師

古希の会 メンバー

大阪S J C D 会員

スタディーグループK S I 主幹